

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700505		
法人名	有限会社みやび会		
事業所名	グループホームいなほ 1番館・2番館		
所在地	長崎県平戸市生月町山田免1074-1		
自己評価作成日	令和4年7月7日	評価結果市町村受理日	令和4年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人のコンセプトは「喜び」。ご利用者様、ご利用者ご家族、その関係者の皆様、職員全員が喜びを感じてもらう事を目的としています。グループホームの理念である「出来る力は奪わない、出来ない事は要求しない、埋もれた力を引き出す」を意識し、「出来る事、出来ない事」を見極めながら、ご利用者に喜びを感じてもらえるよう日々の取り組みをしています。

職員のスキルアップの為、新規採用職員は現場に出る前に座学を中心にした内部研修を実施し、法人幹部とのコミュニケーション作りを行う。介護職員としての知識、技術、資格試験対策ができるように、全職員がいつでも動画研修を視聴出来るようにしており、積極的に学べる機会をつくり、新しい情報を取り入れるようにしている。介護ロボット(見守りセンサー)を全居室に導入し、介護職員の負担軽減を図っている。外国人労働者(特定技能1号)を受け入れ、人材不足の解消を図るとともに、職員間の良好なコミュニケーションが図れるように、職員参加型の企画などを実施している。

また、施設代表が、認知症のセミナーなどを色々な所で開催し、認知症に対する正しい知識の啓蒙活動を実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営推進会議では「運営推進会議の目的と意義」、「法人の理念と職員の誓い」について議題に挙げ、ホームでの取り組み状況とともに理念の周知に繋げ、運営運営推進会議が持つ、情報提供機能、教育研修機能、地域づくり機能を活かし、地域に開かれた運営を行っている。介護ロボット(AIセンサー)の導入や外国人労働者(特定技能)の採用等、介護業界の将来を見据えた先駆的な取り組みを導入されており、職員の負担軽減にも繋がっている。代表者、管理者、職員同士のコミュニケーションは良好で、職員の個人的な相談にも代表者が気軽に応じており、職員の定着にも繋がっている。ホーム内の定期的な換気、清掃、家族面会時のマスク着用、手指消毒、ビニールカーテン越しの面会、高性能空気清浄機の導入等、感染症対策を講じ取り組んでいる。また、提携医や行政等関係機関との連携や相談体制とともに、コロナウイルスをホームに持ち込まないよう細心の注意を払っている。代表者は介護の魅力伝道師事業の講師の他、多岐にわたる福祉活動に活躍されており、職員や地域からの信頼が厚い。行動・表情・不安・就寝等の7項目を設定した24時間の行動記録を記号形式で記録を残すことで、入居者の行動が把握できるよう工夫している。今後も地域での認知症ケアの拠点として更なる取り組みに期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 2番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を唱和し、意識付けしている。 ユニット会議などで、理念を意識した関わりについて意識している。 コンセプトとして、「歓び」「利他の精神」を意識し、実践している。	職員は毎日の朝礼時に理念を唱和している。また、ユニット毎に開催する職員会議においても理念の再確認を行っている。毎年、職員それぞれが理念に基づいた個人目標を設定し、年度末に自己評価を行い、代表者と面談し、個人目標の達成状況を振り返り、理念の周知と更なる目標設定を行いながら、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の誕生会に地域のボランティアの方に訪問して頂き交流を図っている。 月1回認知症カフェを開催して地域の方との交流と認知症の啓蒙活動をしている	コロナ禍以前は、認知症カフェ、地域ボランティアの受入れ、中学生の体験学習等、実施していたが、コロナ禍の影響により、ホーム行事や各種催しは中止や自粛を余儀なくされている。家族の要望により、ホーム玄関口でビニールカーテン越しの面会を短時間で実施している。コロナ禍収束後には地域交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設代表が市内の自治会、学校、会社等で認知症についての講演し、知識や経験を還元している。 認知症カフェの開催や小学生・中学生の総合学習等の受け入れも行っている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近年は、コロナの影響で書面による会議の開催となっている。 その際に委員から意見があれば、その都度ユニット会議などで報告があり、サービスにつなげる内容であれば、ユニット会議の際の議題に出されている	運営推進会議は、現在、コロナ禍により書面会議を行い、構成メンバー宛に会議開催案内状と共に意見書を送付している。構成メンバーからの要望、意見は議題に載せ、ユニット会議で報告し、職員間で意見交換を行っている。初回会議では「運営推進会議の目的と意義」、「法人の理念と職員の誓い」について議題に挙げ、ホームでの取り組み状況とともに理念の周知に繋げ、地域に開かれた運営を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	キャラバンメイト、市の委託事業、認定審査会、介護保険事業策定委員会、地域ケア会議など行政との関わりは非常に多く、協力関係を築けている。	行政担当者が運営推進会議の構成メンバーとして参加している。代表者は当該地域で多岐に渡って福祉全般に関わりがあり、県、市町村等行政関係機関と連携し、協力体制ができています。また、市社会福祉協議会とも権利擁護事業の活用等で協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の新規採用時は、必ず身体拘束、高齢者虐待、尊厳に関する内部研修を必ず開催している。 身体拘束や高齢者虐待など、様々な法人内での動画研修を職員はいつでも視聴する事が出来る環境にあり、空き時間を使って動画視聴をしている	ホームでは身体拘束適正化の為に指針を作成すると共に、3ヶ月毎に代表者、各ユニット主任、関連事業所の管理者、看護職員を構成メンバーとする身体拘束適正化委員会を開催している。身体拘束や高齢者虐待など、様々な研修に関し職員が空き時間などに動画を視聴し、いつでも学べるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の新規採用時は、必ず身体拘束、高齢者虐待、尊厳に関する内部研修を必ず開催している。 身体拘束や高齢者虐待など、様々な法人内での動画研修を職員はいつでも視聴する事が出来る環境にあり、空き時間を使って動画視聴をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を作っており、金銭の管理等権利擁護事業を活用されているご利用者も多くいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明を丁寧に行い事業所のできる事、できない事を明確に説明している。解約時は十分に話し合い段階と期間を経て解除に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など家族に日頃の様子を報告し、意見や苦情については職員が共有し検討。対応、改善の経過や結果を伝えるようにしている。	職員はコロナ禍の状況ではあるが短時間に限定し、玄関で家族と面会を行い、意見を伺っている。遠方の家族にはスマートフォンのZOOMアプリ機能を活用し、意見交換を行うこともある。外部評価結果はホームページに掲載すると共に、重要事項説明書に外部評価受診状況としてQRコードを記載して説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、全体会議を開き意見交換の場を設けている。 利用者との日常の関わりの中で起きる気づきやアイデア等を運営に取り入れている。 施設代表は個人面談を行い、職員の話聴いている。	職員はユニット会議、全体会議を通じて意見交換しており、各職員がそれぞれ担当している入居者の状況報告も含め、看護師、ユニット管理者との意見交換や助言を通じて良好なコミュニケーションが図られている。職員の個人的な相談等は代表者が気軽に応じており、代表者と面談する機会も多い。	ホームのハラスメントへの意識は高く、職員への周知も前向きに取り組まれている。令和4年4月よりハラスメント対策の強化が求められていることを踏まえ、今後、ホームとしてこれらの方針等の明確化と共にマニュアル化し取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、管理者は現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力、成果を把握している。職場環境や条件について具体的に工夫、配慮するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員は現場に出る前は座学などを通して、各部署の幹部等による内部研修を行っている。職員の全体会議でも定期的に内部研修を開催している。その他、職員の立場、経験、習熟度に応じて人材育成に取り組んでいる。常勤、非常勤に関係なく外部研修を受ける機会を平等に設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉事業所の連絡協議会に所属し、他の介護事業所の方と交流する機会を設けている。たまに、他の介護事業所の職員による施設見学なども受け入れている。 ダブルワークで他の介護事業所からパートとして勤務してもらいネットワークを作っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族に聞き取り調査を行いご本人の思いや、不安を知り、困っている事、何を求めているのかその方を良く見て安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り調査をしっかりと行い、本人と家族の課題の違いを把握し、不安を軽減できるようにしている。 家族の要望とご利用者の要望に違いがある場合もあり、しっかりと家族と話し合う機会を作り、課題の解決を図っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援で、できる事はすぐに実践し、検討が必要な場合でも話し合いを重ね支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を手伝って頂き、一緒に作業を行い、感謝の気持ちを表している。生活文化、技などを教わる場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診結果、近況など面会時、電話等で報告し密接な関係づくりに努めている。家族交流会、誕生月には家族を招き昼食会を行い絆を深めて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも、地元の感染状況に応じて、ビニールカーテン越しでの面会を継続している。電話などでも交流してもらっている。	家族が面会した際に、入居者と家族が揃って集合写真を撮影し、便りにも載せて送付している。コロナ禍により、馴染みの美容室の利用や墓参り等の支援は現在中断しているが、感染状況の推移により再開予定である。ホームには毎月、神父が訪問するなど入居者の宗教的な関わりにも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し利用者同士が不快感を持たず関わりあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても地域で会えば挨拶、会話をしサービス利用時に培われた関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中での表情や行動記録など本人の言葉や行動を記録している。 ユニット会議の時に本人や家族の意向などを全職員で共有し統一したケアが出来るように努めている。 お風呂の温度から、食事の料など、一人一人にあった生活リズムを提供している	職員の声かけに対する入居者の行動、表情等を業務日誌、個人生活記録の他、身体面に関する身体記録、心理的要因に起因した行動心理記録に分類し職員間で共有し、入居者支援に活かしている。行動・表情・不安・就寝等の7項目を設定した24時間の行動記録を記号形式で記録を残すことで、入居者の行動が把握できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など家族から情報を得て、一人ひとりの個性、価値観等を把握し、職員で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、身体記録、行動記録を活用し心身状態の把握。できる事、できない事を見極めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が作成したフェイスシートを基に、ユニット会議で職員間の意見交換を行い、家族の意向を含め介護計画書を作成している。ご家族が面接に来た時にも積極的に聞くようにしている。 ユニット会議で全職員が意見を交換したり、家族にも意見や同意をもらっています。	本人、家族、主治医等関係者からの要望、意見、助言等は事前に聞き取り、必要に応じて会議に諮り協議している。介護計画書作成時の担当者会議には全職員が参加しており、介護計画書の短期目標に対するサービス内容は入居者毎に日々の実施記録に記入し、支援内容が一目で分かるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活、身体、行動記録を記入し、情報を共有。それを基に介護計画の見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況や要望に応じて必要な時に必要なサービスを臨機応変に提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生会などボランティアの方に訪問して頂き交流して頂いている。町の文化祭に出展する作品を一年掛けて準備し展示して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、医療機関を受診できるように支援している。 日ごろの生活状況を主治医に情報提供し、受診結果は全職員が把握するように努めている。 主治医には、施設への訪問してもらう環境を整えて、気軽に相談する環境を作ることが出来ている。	毎月、提携医の訪問診療があり、感染症対策上の助言も受けている。また、提携医と緊急時の連携体制も構築している。歯科及び専門医への受診には職員が同行している。家族が受診に同行することを条件に入居前のかかりつけ医を継続することもできる。家族による受診同行の場合は数値化した身体記録、薬の残量等の記録を家族へ渡し、受診後には報告を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職で情報を共有し、話し合いをしながら受診時に状況を適切に伝えられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供書を作成し状況、特徴などを伝えている。医療機関、家族と情報交換し、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間で看取りに対するアンケートや意識調査を行い、いかなる境界と最終的には医療機関へ搬送する事などを話し合い、全職員の意思統一を図っている。	現在、ホームでの看取り支援は行わない方針であり、家族には入居時にホームで可能な支援の範囲の説明を行い、同意を得ている。看取り時期の判断は主治医が行い、家族には状況に応じ提携医またはホームから伝え、今後の対応等について協議している。退所後の受入れ施設について、関係機関と連携し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正常時の状況をしっかりと把握し、いつもの違いに気付く事を意識する事で予測する力を増やしあらゆる可能性を考え検討している。緊急時の連絡体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防設備を整え、定期的に避難訓練を実施している。 備蓄品を準備し、天候が崩れる恐れがある場合は、情報収集をし備える事を意識するようになっている。地域の消防団にも男性職員は入団し、連携を図っている	隣接する関連事業所と合同の自主避難訓練を実施している。消防署や地域消防団を交えた合同訓練を実施していたが、現在はコロナの影響で中断している。災害対策の一環として、関連のデイサービス事業所厨房が感染症発生により使用不能となったことを想定し、地区公民館を使用する訓練を実施したことで、課題点等の把握に繋がった。近隣に海岸があり、津波を想定した訓練の必要性も認識されており、今後、BCP(業務継続計画)も含め策定予定である。	自然災害が顕著になっている昨今、ハザードマップを活用して、例えば避難ルートを実際に歩いてみることで、道幅、段差、河川やぬかるみ等といったリスクの可能性がある場所を事前に把握することを、避難訓練の一環として実施するなど、職員の防災意識を更に高める今後の取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格や趣味など日々の関わりから理解をし、1人1人が笑顔で生活してもらうような関わりを図っている。 言葉掛け等では、会議等で口調や語尾に気を付けるなど、全職員で勉強会などを行っている。	職員は入居者支援の場面での声掛けは、基本的に苗字に「さん」つけて呼んでいる。また、その場の雰囲気に合わせて、方言など親しみを込めた対応にも配慮しながら行っている。入居者の記録類は職員以外が目に見えない場所で管理している。接遇研修等、各種研修は年間研修計画を作り、動画研修も取り入れ、職員の受講状況を代表者が管理し、職員のキャリアパスに反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な生活の場面で、自己決定できる機会を作っている。利用者の表情や反応を見ながら本人が選びやすい場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の身体状況や気分に合わせて一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚染等プライドを傷付けないようにさりげなくカバーしている。2ヶ月に1回事業所に美容師の方に来て頂き支援して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日の献立を見やすい所に掲示している。 トロミ、刻み食の方でも食欲がわくように見た目も工夫している。 一人一人の食事を楽しむ為、好き嫌いな物を職員は把握している。 片付けなどを手伝ってもらっている。	食事は関連事業所であるショートステイ厨房で調理しており、ホームでキザミやとろみ食等に対応している。入居者の嗜好やアレルギーは事前に把握し、厨房にも情報を提供し必要に応じて代替食を準備している。本人が希望するメニューがあれば行事食に合わせて提供し、たこ焼きや寿司パーティー等、できる範囲で入居者も参加し、食事の楽しみに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事、水分量の摂取量を記録し、一人ひとりの常態に合わせ、食事形態の変更などを検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、義歯の管理を行っている。週3回義歯の消毒を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄を記録し、排泄パターンから起きる不穏や意識消失などの症状を記録し、便秘にならないように、医療機関とも相談しながら、ご利用者に応じた排泄支援を行っている。排泄の失敗を減らせるように、排泄パターンを考えて支援している。	日中はできる限りトイレでの排泄を誘導している。夜間帯は介護ロボット(AIセンサー)の活用により、排泄誘導に繋げている。失禁時の対応では入居者へさりげない声かけを行い、シャワー浴等に対応している。夜間帯のオムツ交換は睡眠を妨げないような対応がなされている。ユニット会議等を通じてオムツ・パッドの適正なサイズ、使用量を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、自然排便を促す工夫をしている。下剤等の使用は個々の状況に合わせて病院と相談の上対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように数種類の入浴剤を使用し、リラックスできるようにしている。毎日入浴の準備をしており、本人の希望に合わせて支援している。	入浴は1日3～4名の入居者を職員2名で対応し、脱衣担当、浴室介助担当と決め支援している。入居者による、入浴拒否、入浴順の希望、体調不良等に臨機応変に対応している。感染性皮膚疾患がある入居者には、入浴順への配慮及びマット交換を行っている。1番館にはリフト浴があり、入居者の介護度に応じて活用している。柚子湯や菖蒲湯等季節毎に行事浴を実施しており、入居者にも好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に好きな時間に休息をとれるようにしている。 室温や寝具などの環境を整え安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの薬の内容を把握しやすいように工夫し、把握に努めている。状況の変化を記録し家族に報告、医師に相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持っている力でできる作業をして頂いている。洗濯物たたみ、裁縫、洗い物など役割を持って行って頂いている。月に1回おやつでたこ焼きを作り、利用者に焼いてもらい食べて頂く事で楽しみを持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外に出たいと思っているご利用者と一緒に施設周辺の散歩を行ったり、ご家族の対応で医療機関の受診時などは、車椅子車両を貸し出すなどして外出できる支援をしている。 お花見などの時は、施設内でお弁当を食べるなどしている。	コロナ禍ではあるが、理念に掲げた『喜び』を大切にした支援策の一環として、希望する入居者には抗原検査キットを用いて家族の協力を得ながら外出や外泊の支援を行っている。病院の受診に合わせ、本人の自宅訪問のほか、外気浴を兼ね好天時にはホーム周辺を散策する等、コロナ禍でも工夫しながら外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら利用者一人ひとりに合わせた金銭管理を支援している。数名の方は自分で小額のお金を管理され、安心感をもたれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、携帯電話が使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるものを飾ったりしている。共有空間等のおいなどにも気を付けるようにして、気持ちよく過ごしていただけるように努めている。食事の座る位置などを定義変更したり、ホーム内には季節の物の作品を飾ったりしている。	ホームの共用空間には毎日の献立を掲示すると共に、職員と入居者が花紙をまるめて作成した干支飾りや、季節感のある貼り絵等を壁面に飾っている。入居者それぞれが思いおもいにゆったりと過ごされている。感染症対策として、定期的な換気、アルコール消毒液による手が触れる場所の拭き掃除、高機能空気清浄機の設置のほか、消臭器による臭気対策等、快適で居心地のよい共用空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、椅子などを設置し個々が好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ってきていただくように家族には説明して、自宅に近い雰囲気が出せるように努めている。自宅で使っていたなじみの物を持ってきてもらうなど、自宅と同じ雰囲気が出るように工夫している。	居室には馴染みの小物、愛用の家具、テレビ等、本人の希望の物品が持込まれており、以前からの生活ぶりが継続できるよう取り組んでいる。室温は各居室に温度計を設置することで、職員の感覚で判断するのではなく、温度計を目視し、適正温度に調整している。感染症対策として朝晩の換気と消毒液による拭き掃除、床の掃除機掛け、空気清浄機設置により入居者及び家族に安心感が持てるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるように手すりを設置しており補助具を使用し移動できるスペースを確保している。		

自己評価および外部評価結果

氏名:

ユニット名 1番館

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を唱和し、意識付けしている。 ユニット会議などで、理念を意識した関わりについて意識している。 コンセプトとして、「歓び」「利他の精神」を意識し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の誕生会に地域のボランティアの方に訪問して頂き交流を図っている。 月1回認知症カフェを開催して地域の方との交流と認知症の啓蒙活動をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設代表が市内の自治会、学校、会社等で認知症についての講演し、知識や経験を還元している。 認知症カフェの開催や小学生・中学生の総合学習等の受け入れも行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近年は、コロナの影響で書面による会議の開催となっている。 その際に委員から意見があれば、その都度ユニット会議などで報告があり、サービスにつなげる内容であれば、ユニット会議の際の議題に出されている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	キャラバンメイト、市の委託事業、認定審査会、介護保険事業策定委員会、地域ケア会議など行政との関わりは非常に多く、協力関係を築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の新規採用時は、必ず身体拘束、高齢者虐待、尊厳に関する内部研修を必ず開催している。 身体拘束や高齢者虐待など、様々な法人内での動画研修を職員はいつでも視聴する事が出来る環境にあり、空き時間を使って動画視聴をしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の新規採用時は、必ず身体拘束、高齢者虐待、尊厳に関する内部研修を必ず開催している。 身体拘束や高齢者虐待など、様々な法人内での動画研修を職員はいつでも視聴する事が出来る環境にあり、空き時間を使って動画視聴をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を作っており、金銭の管理等権利擁護事業を活用されているご利用者も多くいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明を丁寧に行い事業所のできる事、できない事を明確に説明している。解約時は十分に話し合い段階と期間を経て解除に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など家族に日頃の様子を報告し、意見や苦情については職員が共有し検討。対応、改善の経過や結果を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、全体会議を開き意見交換の場を設けている。 利用者との日常の関わりの中で起きる気づきやアイデア等を運営に取り入れている。 施設代表は個人面談を行い、職員の話聴いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、管理者は現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力、成果を把握している。 職場環境や条件について具体的に工夫、配慮するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員は現場に出る前は座学などを通して、各部署の幹部等による内部研修を行っている。職員の全体会議でも定期的に内部研修を開催している。その他、職員の立場、経験、習熟度に応じて人材育成に取り組んでいる。常勤、非常勤に関係なく外部研修を受ける機会を平等に設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉事業所の連絡協議会に所属し、他の介護事業所の方と交流する機会を設けている。たまに、他の介護事業所の職員による施設見学なども受け入れている。 ダブルワークで他の介護事業所からパートとして勤務してもらいネットワークを作っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族に聞き取り調査を行いご本人の思いや、不安を知り、困っている事、何を求めているのかその方を良く見て安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り調査をしっかりと行い、本人と家族の課題の違いを把握し、不安を軽減できるようにしている。 家族の要望とご利用者の要望に違いがある場合もあり、しっかりと家族と話し合う機会を作り、課題の解決を図っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援で、できる事はすぐに実践し、検討が必要な場合でも話し合いを重ね支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を手伝って頂き、一緒に作業を行い、感謝の気持ちを表している。生活文化、技などを教わる場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診結果、近況など面会時、電話等で報告し密接な関係づくりに努めている。家族交流会、誕生月には家族を招き昼食会を行い絆を深めて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで以前のような自由な外出や面会に制限があるが、ビニールシートや消毒などの予防策をし、家族との面会など関係性が保てるように支援している。 ご利用者の人間関係を把握し、外出、電話、手紙等の繋がり支援をしている。 家族の面会時は、屋外で集合写真を撮影している		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し利用者同士が不快感を持たず関わりあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても地域で会えば挨拶、会話をしサービス利用時に培われた関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者のその日の状態や本人の意思を伺いながら、生活が出来るように努めている。ご利用者の思いや暮らし方を家族等の面会時に会話の中で聞き取り、生活場面において自己決定が出来るように支援している。日々の行動や表情を記録し、情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など家族から情報を得て、一人ひとりの個性、価値観等を把握し、職員で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、身体記録、行動記録を活用し心身状態の把握。できる事、できない事を見極めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を観察し、課題やケアのあり方を話し合い、本人が過ごしやすいように計画を立てている。 担当者が作成したフェイスシートを基にユニット会議で意見交換を計画に反映している。 家族にも意見を求めるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活、身体、行動記録を記入し、情報を共有。それを基に介護計画の見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況や要望に応じて必要な時に必要なサービスを臨機応変に提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生会などボランティアの方に訪問して頂き交流して頂いている。町の文化祭に出展する作品を一年掛けて準備し展示して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、本人やご家族の意向を聞き、適切な医療を受けられるように訪問診療などで支援している。 ご利用者の身体状況に変化がある際は、身体記録に記録する事が決められており、それを基に主治医に説明、相談をし、結果は職員間で共有出来ている。 ホームには看護師が配置され、各医療機関との検討が出来る環境を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職で情報を共有し、話し合いをしながら受診時に状況を適切に伝えられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供書を作成し状況、特徴などを伝えている。医療機関、家族と情報交換し、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間で看取りに対するアンケートや意識調査を行い、いかなる境界と最終的には医療機関へ搬送する事などを話し合い、全職員の意思統一を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正常時の状況をしっかりと把握し、いつもの違いに気付く事を意識する事で予測する力を増やしあらゆる可能性を考え検討している。緊急時の連絡体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防設備を整え、定期的に避難訓練を実施している。 備蓄品を準備し、天候が崩れる恐れがある場合は、情報収集をし備える事を意識するようにしている。地域の消防団にも男性職員は入団し、連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の性格を把握しており、ココにあった声掛けや生活リズムに合わせて対応している。 内部研修を行い、言葉使い、口調や語気などに気を付け振替える機会を持っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な生活の場面で、自己決定できる機会を作っている。利用者の表情や反応を見ながら本人が選びやすい場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の身体状況や気分に合わせて一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚染等プライドを傷付けないようにさりげなくカバーしている。2ヶ月に1回事業所に美容師の方に来て頂き支援して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの食事状態に合わせて持ちやすい食器、補助具を使ったり、食べやすい配膳に置き、食事を楽しめるように努めている。 1日の献立を誰でも見れる所に掲示し、一人一人の好みを把握して、食べられない物はその人のみ、別メニューを提供している。 食事以外でも好きな物を食べられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事、水分量の摂取量を記録し、一人ひとりの常態に合わせ、食事形態の変更などを検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、義歯の管理を行っている。週3回義歯の消毒を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンに合わせ、日中はトイレで排泄が出来るように声掛け、誘導している。 入所前や入院でオムツになった方も、トイレで排せつできるように支援している。 排せつを失敗した場合も周囲に気付かれないよう配慮をしながら対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、自然排便を促す工夫をしている。下剤等の使用は個々の状況に合わせ病院と相談の上対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者ごとに加齢に合ったシャンプーやボディソープを使ってもらっている。 基本的には1日おきの入浴パターンにしているが、毎日お風呂の準備をして、急な入浴などにも対応している。 ご利用者の希望の温度に調整をしている。 リフト浴を使い、全利用者が浴槽に入れるように努めている。尋常性乾癬が落ち着いてきた利用者もいる		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に好きな時間に休息をとれるようにしている。 室温や寝具などの環境を整え安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの薬の内容を把握しやすいように工夫し、把握に努めている。状況の変化を記録し家族に報告、医師に相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持っている力でできる作業をして頂いている。洗濯物たたみ、裁縫、洗い物など役割を持って行って頂いている。月に1回おやつでたこ焼きを作り、利用者に焼いてもらい食べて頂く事で楽しみを持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は難しかったが、予防や家族の体調変化の記録、検査キットなどを活用し、ご家族と外出や外泊ができるように支援している。 積極的に外出する機会を作り、ドライブに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら利用者一人ひとりに合わせた金銭管理を支援している。数名の方は自分で小額のお金を管理され、安心感をもたれている。		

自己	外部	項目	自己評価	6	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、携帯電話が使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや食卓には死期を感じてもらうような物を飾ったり、花を活けて置いている。 各居室には、温度計を置き、適温で過ごせるようにしている。 食事の座る位置や向きなど、利用者の状況に応じて変更するなどして、トラブル防止に努めている。 職員が手書きしたイラスト等を張り、空間の演出をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子などを設置し個々が好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすいようにそれぞれに合った家具、P-トイレの位置を決め、自宅で使い慣れている物ハモって来てもらい、居心地よく過ごせるように努めている。 自宅に近い環境を作れるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるように手すりを設置しており補助具を使用し移動できるスペースを確保している。		